政治

許在喆（ホ ジェチョル）（圓光大学校）

張維為（チャンウェイウェイ）著、イ・ジョンフン訳、許在喆、キム・スンヒ監修

『中国の G1 戦略』（ヨクサイン、2015 年）

장웨이웨이 지음 , 이정훈 옮김 , 허재철・김승희 감수『중국의 G1 전략』（역사인 , 2015 년）

私たちは今、従来の覇権国家であるアメリカと新たに台頭する大国の中国が、世界情勢に大きな影響をおよぼす時代に生きている。この時代のことを世界の人々は「G2 時代」と呼ぶ。韓国と日本もこの影響下から自由ではありえない。日本は早くから超大国アメリカを選択し、日米同盟を強化することによってアメリカと共に中国を牽制してきた。その代価として、アメリカからは普通の国家化への支持を引き出した。一方、韓国の選択は日本のそれとは大きく異なっている。南北対立という特殊要因があるため安全保障分野においてはアメリカとの同盟強化を訴える声は依然として強いが、経済分野においては中国との協力・強化が強調されている。韓国は日本と異なり、現在も一つ一つの事案ごとにアメリカと中国とのあいだで戦略的にどのような選択をなすべきか悩んでいるのである。

そのような影響を受けてか、近年韓国社会では中国に関する研究が活発に行われている。大型書店で中国関連の書籍が平積みにされていることからも、その活発さがうかがわれる。「G2 時代」における戦略的選択について考えるためには、アメリカ研究にくらべてかなり立ち遅れている中国研究を積極的に行う必要があるからである。特に、台頭する中国の性格をめぐる議論がかまびすしい。

そんななか、2015 年 7 月に刊行された『中国の G1 戦略』は、中国の台頭について考察するための貴重な機会を提供してくれる。同書は中国の著名な学者である復旦大学の張維為教授が執筆した原書を韓国語に翻訳したもので、中国台頭についての中国人学者の認識を直接に知ることができる点に大きな意味がある。

「中国の崛起」が世界中でホット・イシューとなった昨今、その現象を説明するため学者たちは「中国モデル」という概念をつくり出し、これはさまざまな学問領域において熱い論争の的となっている。関連し、同書の著者・張維為教授は、「中国モデル」という概念をさらに発展させた「文明型国家」という概念を用いて中国台頭についての説明を試みている。すなわち、中国の台頭は通常の国家の一時的な興起ではなく、人類文明最初の発祥地で数千年にわたる悠久の歴史を歩んできた国家だからこそ可能だったのであり、また、だからこそ前例のない新たな文明を誕生させることができるというものである。西洋や西洋の現代化戦略を踏襲した他地域の国々とは次元が異なるということである。そのため同書では、インドと東欧、東アジア諸国の発展モデルを具体的に分析し、その問題点を指摘する。そして中国の発展モデルはそのような国々とは異なる「文明型国家」の台頭であると述べる。その過程で張維為教授は、中国の発展モデルは完璧なものではないが全体的には成功的であり、それは西欧モデルを採用した非西欧国家が成し遂げたものよりもはるかに優れていると主張する。特に中国モデルは全世界的な激動と競

争を基盤として生まれたもので、強い競争力を持ち、一部の西欧での予測のように崩壊はしないであろうし、むしろ徐々に改善されていくだろうと言う。

同書の意義は、著者がこのような主張を裏づけるために「中国モデル」の８つの特徴と８つの理論を列挙していることにある。それは「中国モデル」という概念についての学術的な理解を深めるのに役立つだろう。

なお、同書の著者である張維為教授は、中国の上海にある復旦大学外国語文学科を卒業後、ジュネーブ大学で国際関係学の修士・博士学位を取得し、オックスフォード大学で客員研究員として活動した。現在はジュネーブ外交・国際関係学院教授、ジュネーブアジア研究センター上級研究員、復旦大学特任教授として在職している著名な学者である。

〔翻訳　呉仁済〕